



サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門による
サレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

感謝を



友人の皆さん、

「人は自分の望むことを自由に選択できるが、その選択の結果からは自由になれない」と言われます。実際、私は、自分の選択することの結果です。一つひとつの選択は-とめどなくスクロールすることであれ、意味深く何かに取り組むことであれ-私たちの生産性、精神の健康、人間関係、全般的な幸福感に、影響を及ぼす力があるのです。責任あるテクノロジーの使用は、最終的には個々の選択にかかっています。

意識的な、理性的な選択を行うことによって、テクノロジーは、成長、つながり、心の充足の道具となりえます。ノーベル平和賞受賞者、クリスチャン・ランジュが賢明に語ったように、「テクノロジーは召し使いとして役に立つが、危険な主人となりうる」のです。

真に問わなければならないのは、テクノロジーは私たちを力づける道具となるのか、それともストレスや気持ちを散漫にさせる原因になるのか、という問いです。それは私たちを奴隷にしてしまうのでしょうか、それとも主人にするのでしょうか。その答えは、テクノロジーを使用する人の手の中にあるのです。

皆さんが賢明な選択をし、テクノロジーによって生活が良いものとなり、決してテクノロジーに自分をコントロールさせることはありませんように。

Harris

● 広報部門メンバー、
InfoANS責任者
ハリス・パッカム神父, SDB

「活動しながら観想に生きる者」 : 祈りとデジタル世界のテクノロジーとのバランス

ネットワークで高度につながった現代の世界で、テクノロジーは私たちの日々の生活の一部になっています。ポケットのスマホからSNSに至るまで；私たちに絶えず情報を送り、楽しませ、関心を惹きつけます。こういった進歩は、福音を広める新たな方法を含め、かつてない機会を提供する一方で、さまざまな挑戦も投げかけます。このことは、特にAIの最近の発展を考えると、重大な問いを浮かび上がらせます。

祈りに養われる生活と、絶えずスマホに気を取られることとの間に、どのようにバランスを見いだしたらいいのでしょうか。チャットやスクロールに自分がどれほど時間を費やしているか知っているのでしょうか。デジタル機器の使用は、私たちの霊的な健全さにどのような影響を与えているのでしょうか。機器がもたらす情報にあふれた世界で、私たちの会憲に打ち出されている「活動しながら観想に生きる者」(会憲第12条)という概念は、私たちの日々の活動において今も意義を持つのでしょうか。デジタル世界で孤立する若者たちと、デジタル機器を使って、よりよくつながることはできるのでしょうか。

こういった基本的な問いを、特に私たちサレジオ会員は、今日の社会におけるその複雑な特質のため、真剣に考察しなければなりません。伝統的な聖務日課の本が、今はあまり顧みられなくなっているのを見るとがっかりします。ミサ聖祭のためでさえ、私たちはしばしばモバイル機器の使用に頼ります。共同体や周りの若者たちとの間にどんどん距離ができてしまっていることに、私たちは気づきま

す。これは憂慮すべきことです。「コミュニケーションはつながることから始まり、絆、共同体、一致の交わりへと向かう」(教皇庁司牧委員会司牧指針「コミュニケーションと進歩 Communio et progressio」, 12 拙訳)ことを意識するべきでしょう。

したがって、燃え尽き为了避免するため、スクリーンに向かう時間に制限を設け、境界線を引き、自分が関わる内容を取舍選択し、デジタル上の交流と、顔と顔を合わせる人間関係との健全なバランスをきちんと確保することが大切です。そうすることで私たちは、霊的な健康を保ちながら、これらの道具を最も良く活かすことができます。テクノロジーを若者の救いのために活用するデジタル宣教師に確実になれるでしょう。心に留めましょう：サレジオ会員は…「神との一致を深める。それは生きておられるキリストと、また、身近に感じる御父と、率直に、心から対話をし、絶えず祈る必要を意識するからである。わたしたちのうちにおられる聖霊に注意を向け、なにごととも神を愛するために果たしつつ、ドン・ボスコにならって、活動しながら観想に生きる者となる」(会憲第12条)。

● フィレモン=アンソニー・チャチャ神父, SDB
タンザニア(TZA)出身、現在UPS、広報学科に留学中

振り返りと分かち合いのために

- 自分の霊的生活とスマホに絶えず気を取られることとの間にバランスを見いだすために、何ができるだろうか？



AIの正しい使い方の鍵、 誰が、何のためにそれを活用するかということ

リボル神父様、今月、私たちは感謝を、特にメディアのために感謝をしたいと思います。神父様はこの分野で長く働いています。ご自身は何に感謝していますか？

私は、メディアのおかげで、若者たちのいる場所で彼らに出会うことができることを感謝します。福音は常に、それぞれの時代に手に入る手段を通して広められてきました - ドン・ボスコは出版を用い、私たちにはソーシャル・ネットワーク、ポッドキャストや動画があります。これらによって、情報を伝えるだけでなく、何よりもインスピレーションを与え、喜びと希望をもたらすことができます。

また、この活動に関わる人々にとっても感謝しています。発信される内容の一つひとつは皆、多くの人の協力の結果です。そして見て、聴いて、読んでくれる人にも感謝します。自分たちのやっていることは意味のあることだと、私たちに気づかせてくれるのです。

最近、人工知能AIについて、盛んに話題になっています。現在、AIはどこにでもあるということ、そしていつか私たちを破滅させるかもしれないということです。私たちはAIを恐れるべきでしょうか？

恐れるべきとは言いませんが、うぶな考えでいてはいけなは確かです。AIはすでに、メディアから教育、経済から政治に至るまで、社会に大きな変革を起こしている道具です。そして、はい、それには現実のリスクが伴います。例えば、ゆがめられた情報、世論操作、人の声や肖像を偽ることのできるディープフェイクなどが広く出回っているのが見られます。AIが規制されることなく発展するなら、その能力は、人によって制御できないものになり、真実と操作されたものを区別するのがますます困難になりえます。したがって、私たちに投げかけられている挑戦は、AIを使うだけでなく、倫理的に、また批判的に、AIについて考えることです。テクノロジーそのものは良くも悪くありません。鍵となるのは、誰が何のためにそれを活用するかということです。もし規制もなく、倫理的価値観にも基づかないなら、危険になりえます。

若者との活動のためにAIの使い方を学びたいという人に、神父様はどのようなアドバイスをしますか？ どこから始めたらいいのでしょうか、何をすればいいのでしょうか？

恐れずに試してみる、でも結果がどうなるかを考えることを勧めます。AIは福音宣教と若者の活動のために大変効果的に用いることができますが、あくまでも道具でなければなりません。人間の交わりに代わるものであってはなりません。

何か具体的なことで試してみることから始めてみてください：聖書の話の画像をAIに作らせてみる (Leonardo AI, Midjourney)、カテケーシスの短い原稿を作る (ChatGPT, Claude)、広報のためにグラフィックスを用意する (Canva)、ビデオを編集する (CapCut, Inshot) など。人工知能は時間の節約になりますが、考えたり決定したりするのを任せてはいけません。大切なのは、若者との活動のためにAIの使い方を考えることであり、活動の代わりにAIを使うことではありません。批判精神をもって考えること、創意工夫豊かであること、真理を探究することを、私たちは若者に教えます - このことにおいては、いかなるテクノロジーも、若者と共に歩む生きた人間に取って代わることはできません。これこそが、私たちサレジオの役目なのです。



リボル・ヴシェトゥラ神父, SDB

私は**チェコ共和国**出身で、管区の広報担当を務めています。6年間、ブルノ・ザボヴレスキーの共同体の院長として、サレジオ・メディアセンターの所長、サレジオ・メディア学校の講師を務めました。私は**新しいメディアとテクノロジー**の使徒職に献身し、メディア教育を教え、TV Noeに協力しています。私の目標は、現代のコミュニケーションの道具を司牧、福音宣教に活かすことです。**デジタルの世界でキリスト教的価値を若者にもたすために。**

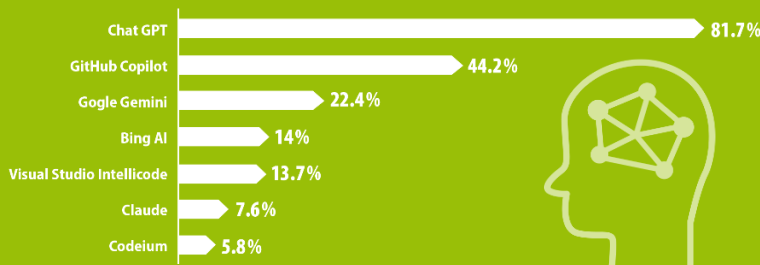


フ ォ ー ラム 人工知能の活用

最も多く利用されている
AI検索・開発ツール

www.statista.com

このデータは2024年現在、
世界の開発者による利用を表すもの。



4月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

感謝 > 新たな技術

サレジオ会の意向

青少年の善益のため、新たな技術を通してデジタル大陸に関わるサレジオ会員の宣教的な働きに感謝します。

教皇フランシスコの祈りの意向 > 新たな技術の活用のために


広報のために
共に働く人々